



来賓挨拶

厚生労働省大臣官房厚生科学課長

塚原 太郎

本日は、第19回研究助成金贈呈式が、関係者の皆様方ご参集の中で盛大に開催されますことを、心からお祝い申し上げます。

また、日頃からわが国の保健医療・福祉の充実にご尽力いただいておりますことに、併せてお礼を申し上げます。

経済情勢が厳しい中でファイザーヘルスリサーチ振興財団は基金を毎年増やし、その果実を「研究助成事業」活動によって助成をしていただいております、研究者の皆さん方には貴重な研究財源になっていると思います。財団の方にもお礼を申し上げたいと思います。

特にこの財団の研究助成は、国際共同研究と若手の育成ということで、非常にテーマが明確化されていると理解しております。厚生労働省の研究費ではなかなか十分なご支援が出来ない部分を積極的に担っていただいていることを、非常に有り難く思っております。

また、助成が決まり、本日贈呈を受ける皆様にも、心よりお慶びを申し上げたいと思います。

私も、最後の1時間ほど、ご発表を拝見・拝聴しておりましたが、国際的な観点からわが国の保健、医療、福祉の課題を明確化してくださり、さらに今後のあるべき姿もご提言いただいている研究ばかりで、大変感銘を受けました。

日本の医療はいろいろ問題がありながらも世界に誇るものだと、私は考えておりますが、ご指摘のように、例えばボランティアの方々との連携であるとか、身体拘束という話など、国際共同研究で問題点を理解して日本の医療を改善につなげていくというようなことも、これから積極的に取り組んでいく分野だろうと考えております。

研究費の助成を受けられます先生方、これから何年間かの研究ということになるのかと思いますが、是非、現場に役に立つプラクティカルな研究成果を上げていただければ、と考えております。今後のご活躍をお願いします。

ここで少し時間をいただき、PRをさせていただきたいと思います。厚生科学課は厚生労働研究事業を所管しており、現在公募をさせていただいております。「ファイザーヘルスリサーチ振興財団の研究費をいただいたからもういい」とおっしゃらずに、是非厚生労働省の研究事業の方にも、チャレンジングな研究計画で申請をしていただければ大変有難いと考えております。よろしく申し上げます。

最後になりますが、本日で参集の皆様方の今後のご活躍と、当財団の益々のご発展を祈念申し上げて、簡単ではございますが、お祝いの言葉とさせていただきます。